

令和元年度第三セクター経営状況確認シート

～を各団体で記入
を市所管課で記入

団体の基本情報	団体名	公益財団法人所沢市文化振興事業団				出資金	200,000 千円		設立年月日	平成4年7月23日	
	団体の設立目的	音楽、演劇をはじめとする優れた芸術文化に接する機会や、市民の芸術文化活動を促進する催事等の場を提供することにより、芸術文化と地域コミュニティの振興を図り、もって地域社会の発展と豊かな市民生活の形成に寄与することを目的とする。									
	組織の状況 (平成30年4月1日現在)	役員数 (うち常勤数)				職員数 (うち常勤数)				備考	
	市の関与 (財政的、人事的つながりなど)	プロパー	市現職	市OB	その他	合計	プロパー	市現職	市OB	その他	合計
事業の具体的な内容及び実施方法	0 (0)	2 (0)	2 (1)	8 (0)	12 (1)	6 (6)	0 (0)	1 (1)	7 (7)	14 (14)	

財務状況		平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
	経常収益	740,939,419	783,210,309	806,154,741	805,682,912	687,374,259
経常費用	749,795,330	780,615,013	789,393,874	776,233,548	620,785,749	
経常増減額	8,855,911	2,595,296	16,760,867	29,449,364	66,588,510	
総資産額	627,057,564	636,986,192	633,283,698	644,908,546	611,519,672	
純資産額	383,307,525	384,952,996	401,713,863	431,163,225	497,751,735	
市補助金	0	0	0	0	0	
市委託料	479,710,286	480,430,286	481,150,285	492,395,000	443,024,000	

活動実績	項目名	単位	H26	H27	H28	H29	H30
			ミュージック 利用者数	人	454,316	465,321	484,181
ミュージック 施設利用率	%	82.3	83.2	84.0	81.4	79.3	
自主事業本数	本	86	92	96	96	79	
自主事業入場者数	人	56,115	74,326	66,209	68,286	58,917	

改善内容

- 自主事業について
 - 引き続き、来場者へのアンケート実施により、ニーズの把握に努め、内容を精査した上で事業計画に活かしている。また、所沢市、地元企業、地域と連携した取り組みも継続して積極的に実施しているが、大規模改修による長期休館となった12月以降は、新たな連携先を開拓し、所沢駅前商業施設や「淵の森」「新所沢レッツシネパーク」で主催公演を実施するなど、地域との連携を一層強化している。
 - チケットの販売にあたっては、購入者の利便性の向上を図るため、チケット販売システムを刷新し、インターネットによる予約・販売とクレジットカード決済のほか、コンビニエンスストアでのチケット発券を可能とした。
- 自主財源の確保について
 - 企業協賛金獲得の拡大を図ったほか、オルガン事業に対する「音楽活動助成金」を新たに獲得するなど、自主財源の確保に努めた。
- ミュージックの管理・運営について
 - ミュージック大規模改修の実施にあたっては、開館以来25年に渡る運営ノウハウを活かし、特に来館者から要望が高いアークホール内女性用洋式トイレの増設や、各ホールの客席案内サインの改修、マーキーホール出入口段差解消などについて提言を行い、改修計画に盛り込まれることとなった。また、館内扉の丸型ドアノブをレバー式に変更するなど利用者の利便性の向上に努めている。所沢東消防署や所沢警察署の協力の下、コンサート形式の避難訓練を継続的に実施し、利用者にとって安全・安心な施設運営を実施した。
- 組織力の強化について
 - 継続性ある安定した人員体制構築のため、有期雇用職員の正職員登用化を進めるとともに、31年4月1日付採用(4名)に伴う各種手続きを実施した。

事業概況	事業の経過及び成果	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、30年度～令和3年度(4年間)のミュージック運営方針に基づき、明確なビジョンの下に運営を行った。 ミュージック大規模改修による長期休館にあたっては、施設利用者へ適切な情報提供を行うとともに、所沢市文化芸術振興課及び改修事業者が定期的(月2回)に実施する会議に出席し、改修事業が円滑に実施されるよう支援を行った。また、ミュージックの運営に関しては、所沢市文化芸術振興課と指定管理業務に伴うモニタリングの他に、定期的(月1回)に会議を実施し、情報交換を行っている。 長期休館中においては、ミュージックを会場とする主催公演が実施できないため、市内各所を会場とした「アウトリーチ事業」を実施した。
	対処すべき課題	<ul style="list-style-type: none"> ミュージック大規模改修に伴う長期休館及びリニューアルオープンへの対応 長期休館中及びリニューアルオープン時における施設利用者への適切な対応(利用申請方法や改修内容、料金改定に関する周知等) リニューアルオープン後を見据えたミュージック以外を会場とした効果的な自主事業の実施 長期休館による利用料金収入減への対応(繰越金や文化事業積立資産の取り崩し) 所沢市及び改修事業者との情報共有と連携の強化(特にリニューアルオープン後の運営について) 自主事業を通じた「所沢ブランド」の推進 地域との連携事業の拡大、強化 事業実施における寄付金、協賛金、補助金、助成金の獲得 組織力の強化 専門家の意見を事業団運営に具体的に反映させる体制の構築(企画運営委員の設置、役員体制の更なる充実等) 有期雇用職員の正職員登用制度の運用、及び事業団が安定して継続運営していくための適切な職員採用

所管課評価	
必要性の視点	文化振興事業団の設立目的である「優れた芸術文化に接する機会や、市民の芸術文化活動を促進する催事等の場を提供する」とは、市の総合計画にも位置付けられた重要な施策に沿うものであることに加え、大規模改修に伴う休館やリニューアルオープンを迎える中で、円滑に施設管理や事業展開を行うためには、市民との信頼関係や事業実績・ノウハウを持つ文化振興事業団は引き続き必要であると判断できる。
効率性の視点	平成30年12月10日から施設改修による休館期間となる中で、施設利用率は近隣施設と比較しても高い水準を維持しており、自主事業についても、本数、事業内容の質ともに高い評価を得ていることに加え、経常収支もプラスとなっていることから、良質のサービスを継続的に提供している団体であると判断できる。一方で指定管理者制度を導入していることから、施設管理・事業運営を効果的かつ安定的に実施することに加え、常に効率化も追及していくことが必要である。
自立性の視点	過去には、経常費用が経常収益を上回る年度もあったが、平成27年度以降は解消されており、財務状況は安定しているものと判断できる。また、財団設立時より、財団の会計の中で調整できており、市の出損金を使うことや追加の委託料が発生していないことから、自立性・健全性は確保されている。ただし、令和元年度は大規模改修に伴う休館により年間通して利用料金収入が見込めないため、引き続き、文化事業積立金の活用等の創意工夫及び経費の縮減が求められる。